

[第 110 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年 10 月

NPO法人高島藤樹会

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

10 月もコロナ対策を十分に行って、第 109 回藤樹人間学塾を開きました。

最初に 9 月 29 日の次期アメリカ大統領候補のトランプ氏とバイデン氏のテレビ討論会で、お互いに非難の応酬になったことに触れ、節度ある対応を教える東洋思想と対極にある行動だと話しました。

さて、今回も『中庸解』第 20 章の続きです。「博くこれを学び、詳らかにこれを問い、慎んでこれを想い、明らかにこれを弁じ、篤くこれを行う。…」大意について次の様に説明しました。「この節は誠を行うために、善を択んで固執する細目です。多く見て、多く聞いて、心の本体を覚知しようと求め、詳細に我が身に照らして惑いを除き、妄想・雑念を発せず自分の頭で真剣に考え、そこで得たものの公私、義利、是非、真妄等をしっかり区別して、深く信じて不断に力を用いて行う。一旦、これ等のことをする上は、達成するまで手を止めずにどこまでも努力する」。

『中庸解』の中に程子が出てきます。程子は「性即理」の論理を説きました。…理を媒介として万物が生成され継承されるのであれば理は遺伝子と似た存在のようにも思えます。

そこで遺伝子工学の第一人者、村上和雄氏が述べておられる言葉を紹介しました。村上氏曰く「プラス発想をすれば遺伝子が目覚める。宇宙飛行を体験すると神仏の存在を想わずにはいられない(これは藤樹の「孝」の思想に近い)。ヒトは本来助け合う生き物として進化してきた」。



参加者からは「宇宙に思いを馳せる生き方の言葉は歌謡曲にたくさん使われている…(それだけ人の心を打つのですね)」、「大学で学生から『善はあるか』、『心の本体』等について問われると答えるのが難しい」、「子供には言葉で教えるより自然の中で教えると効果がある」、「善と悪は局面によって変わる」、等のご意見を頂きました。私からは「藤樹先生の教えは孟子の性善説が基になっているので温かい」等と話しました。

学ぶは^{たの}愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

■ 日 時 令和 2 年 11 月 7 日(土) 15 時～17 時

■ 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中 89)

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 20 章 p.297～

塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)